

C-47 和服地の縫製に関する研究(第9報) 和裁専門家の能率について
栗立会津短大 佐川澄子

目的 和裁の専門家に依頼して、母指長の測定と、なみぬいテストを実施し、家政科学生との比較を行ない、その長さ、目数、正確率の点で、母指長の長さ、ぬい針の長さが、成績に関係することをたしかめたので報告する。

方法 会津若松市および喜多方市に居住する和裁の専門家、21オから67オに至る、15名の人に依頼して母指長を測定した。その結果、長指に属する3群、4群の人が多かったので、比較として、家政専攻1年修了の3群、4群に属する学生を無作為に選び、規定の方法により、両群をなみぬいテストを実施した。その成績を評価法A案によって評価した。

結果 なみぬいの長さについては、専門家群は学生群より2倍の速さでぬうことができ、各種のぬい針毎の成績は、両者間に1%の有意差を生じた。特に針長が母指長の65~67%の長さの時成績の向上が認められた。目数は長さの場合と同様である。

正確率の場合、一例を除いて学生群の方が成績よく、この場合は、母指長の62~67%のぬい針長さの時、最も効果あることが実証された。

過去6年間の母指長測定は、小学生から専門家まで1000人と越え、母指長の長さの分布は、3.6~6.9cmまでの広い範囲にあることが明らかにされた。その結果から和服地の縫製を能率的に行うには、母指長の65±5%の長さのぬい針を用意することである。特に初歩の指導にこの点を留意されるならば、日本人個々の器用さと相俟って、所期の効果を挙げ得るものと確信する。